

第5次与論町総合振興計画 総括評価報告書

共に創ろう 未来への架け橋
～元気・チャレンジ・感動～

令和3年2月
鹿児島県与論町

目 次

第1章 総合振興計画の総括にあたって

1. 趣旨	1
2. 与論町総合振興計画の体系と総括評価の対象範囲	1
3. 事業評価について	3
4. 将来目標人口の検証	4

第2章 評価総括

1. 評価の総括	6
2. 評価指標による評価集計	7

第3章 重点プロジェクトの事業評価

1. 健康増進プロジェクト	9
2. 子宝プロジェクト	10
3. 人づくりプロジェクト	12
4. 農水産業プロジェクト	15
5. 環境プロジェクト	18
6. 観光プロジェクト	21

第4章 基本計画の事業評価

1. 保健・福祉・医療	24
(1) 保健・福祉	24
(2) 医療	34
2. 教育・文化	36
(1) 幼児教育	36
(2) 学校教育	38
(3) 生涯学習	41
(4) 文化・スポーツ	44
3. 産業	48
(1) 農業	48
(2) 水産業	57
(3) 商工業	60
(4) 観光業	61
(5) 特産品の開発	66
4. 生活基盤	68
(1) 土地利用	68
(2) 道路・交通	69
(3) 情報・通信	71
(4) 住宅	72
(5) 緑化	74

(6) 水道	74
(7) 環境保全	75
(8) 消防防災・生活安全	78
5. 共生・協働	81
(1) 共生・協働	81
6. 行財政	85
(1) 行政	85
(2) 財政	88
資料	92

第1章 総合振興計画の総括にあたって

1. 趣 旨

本町では、平成23年3月に策定した「第5次与論町総合振興計画」（以下「計画」という。）を、町民と行政が共有する、10年間にわたる総合的かつ計画的なまちづくりの指針としてきました。この間、将来像「南の島の豊かな心と自然が創る活力と希望のあるまち」の実現に向けたまちづくりを推進してきました。

本報告書は、計画に基づき、令和2年度までの10年間にわたり進めてきたまちづくりの取組内容及び施策展開によって得た成果や積み残した課題等を明らかにし、次期計画の第6次与論町総合振興計画に沿ったまちづくりを着実に進めるため、施策や事業の結果を総括し、報告書としてまとめたものです。なお、計画最終年度である令和2年度については、期中評価となります。

2. 計画の体系と総括評価の対象範囲

この計画は、「基本構想」「基本計画」「重点プロジェクト」から構成されており、この計画に基づいた「実施計画」を3期に分けて策定し、各分野に位置付けられた各種施策を総合的に進めてきました。

本総括評価においては、まちづくりの将来目標人口についての検証、基本計画及び重点プロジェクトの評価を行います。

- 基本構想・・・・・・・・ 本町の将来を長期的に展望し、まちづくりの基本理念と町の将来像を明らかにし、まちづくりの目標と基本方向を示したものです。
- 基本計画・・・・・・・・ 基本構想に基づいて、本町のまちづくりの各分野における施策の基本方向を示したものです。
- 重点プロジェクト・・・ 基本構想で明らかにされた本町のまちづくりの目標及び基本方向を実現するために、必要かつ重要と考えられる施策で、最重要で取り組んでいくべき施策を示したものです。
- 実施計画・・・・・・・・ 基本計画に定めた各施策及び基本事業を財政的な裏付けのもとで実施していくことを目的とするもので、その計画期間は、3期とし、各期において計画の見直しを行うものです。

第1期 平成23年度～平成26年度

第2期 平成27年度～平成29年度

第3期 平成30年度～令和2年度

基本構想

基本
理念

共に創ろう 未来への架け橋
(元気・チャレンジ・感動)

将来像

南の島の豊かな心と
自然が創る活力と希望のあるまち

基本計画

1 保健・福祉・医療

①保健・福祉 ②医療

2 教育・文化

①幼児教育 ②学校教育
③生涯教育 ④文化・スポーツ

3 産 業

①農業 ②水産業 ③商工業
④観光業 ⑤特産品の開発

4 生 活 基 盤

①土地利用 ②道路・交通
③情報・通信 ④住宅
⑤緑化 ⑥水道 ⑦環境保全
⑧消防防災・生活保全

5 共生・協働

①共生・協働

6 行 財 政

①共生・協働

重点プロ
ジェクト

1 健康増進プロジェクト

健康づくり事業の推進

2 子宝プロジェクト

(1) 子育て環境の充実
(2) 子育て支援金給付事業の推進
(3) 縁結び事業等の支援

3 人づくりプロジェクト

(1) 心豊かな人づくり
(2) まちづくり人材の育成と活動の支援
(3) シルバー人材センターの設立

4 農水産業プロジェクト

(1) 農業の振興
(2) 水産業の振興
(3) 特産品開発の支援

5 環境プロジェクト

(1) 花と緑のまちづくりの推進
(2) ヨロンの海再生事業の推進
(3) 環境保全型農業の推進
(4) 環境学習の推進

6 観光プロジェクト

(1) 観光ルネサンス事業の推進
(2) 体験型観光の推進
(3) 地域ICT事業の推進

3. 事業評価について

施策体系に位置付けられている275事業について、事業ごとに主な実績や課題について評価し、第6次与論町総合振興計画に向けた目標を示します。一覧の見方は以下のとおりです。

(1) 各項目について

- 基本事業 … 計画の施策体系に位置付けられた最小単位である事業の名称です。
- 事業内容 … 推進している事業の内容です。
- 評価と目標 … 各課・局等において、所管している事務について「主な実績」「評価」「課題」に分けて事業評価を行い、これを踏まえて「第6次与論町総合振興計画に向けた目標」をたてました。なお、評価方法については以下のとおりです。

(2) 評価方法について

○評価	(達成率計算式用評価)
「A A」 : 100% (達成)	→ 100%
「A」 : 100%未満80%以上 (概ね達成)	→ 80%
「B」 : 80%未満60%以上 (一部達成)	→ 60%
「C」 : 60%未満 (未達成)	→ 30%

(3) 評価結果と進捗度について

進捗区分について、大綱ごとに集計を行うとともに、進捗度を割り出しました。この進捗度は、評価「A A」「A」「B」を事業が進捗している事業として捉えて、これらの合計を施策数で除した数値です。

○達成率計算式

$$\text{達成率} = \frac{(\text{「A A」の数} \times 100\%) + (\text{「A」の数} \times 80\%) + (\text{「B」の数} \times 60\%) + \text{「C」の数} \times 30\%}{\text{評価項目数}} \times 100(\%)$$

○進捗度

$$\text{進捗度} = \frac{(\text{「A A」} + \text{「A」} + \text{「B」})}{\text{評価項目数}} \times 100(\%)$$

4. 将来目標人口についての検証

■令和2年の目標人口 ※5,000人

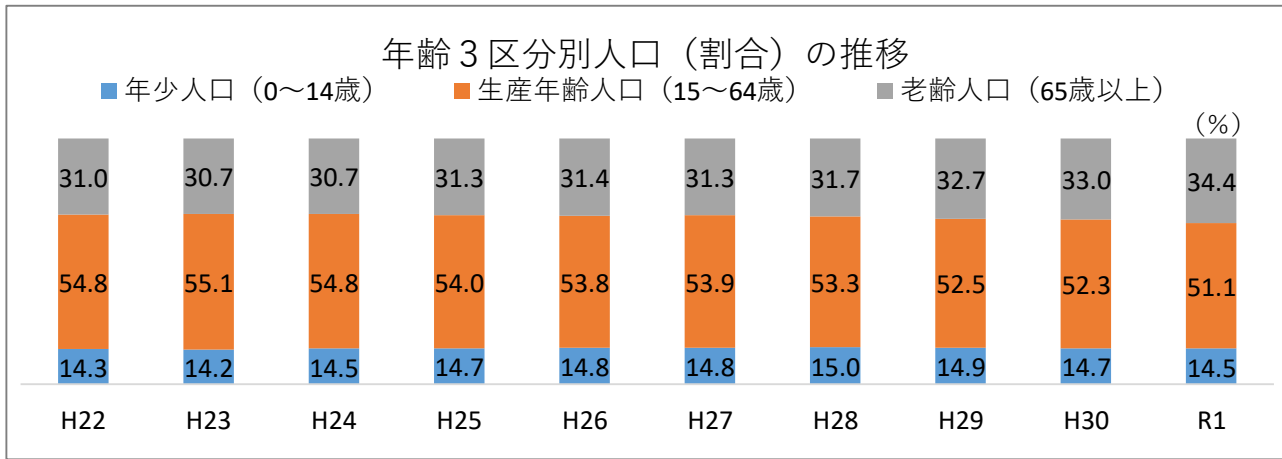
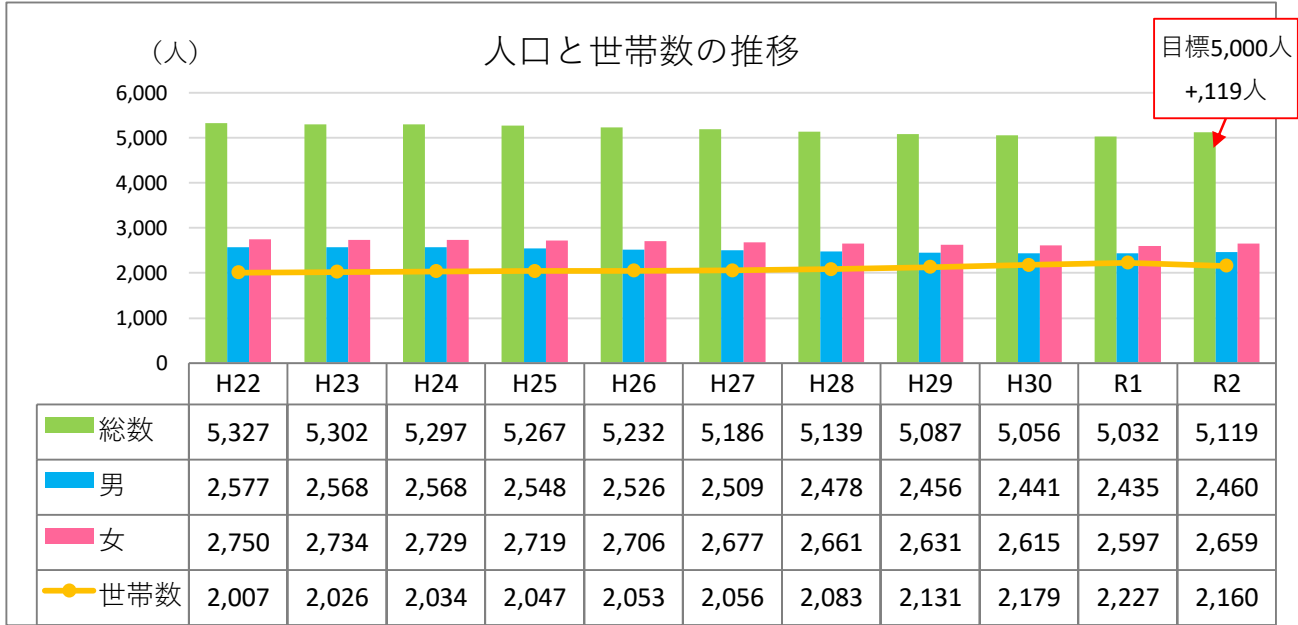
⇒令和2年現在の与論町の人口 5,119人（町の国勢調査値）

本町の人口について、計画策定当初と比較しますと、平成22年の5,327人から令和2年の5,119人と208人減少、世帯数は2,007世帯から2,160世帯と153世帯増加となっております。計画策定時の平成32年（令和2年）の推計人口4,893人を226人上回りました。

自然増減においては、死亡数が出生数を上回る状況（自然減少）が続いており、出生者数から死亡者数を引いた数の差が一時広がりましたが、近年は差が狭まりつつあります。出生数については減少傾向にあるため、今後も少子高齢化が予想されます。今後の対策として、出生数の増加、産み育てやすい環境の整備等が引き続き必要になると考えられます。

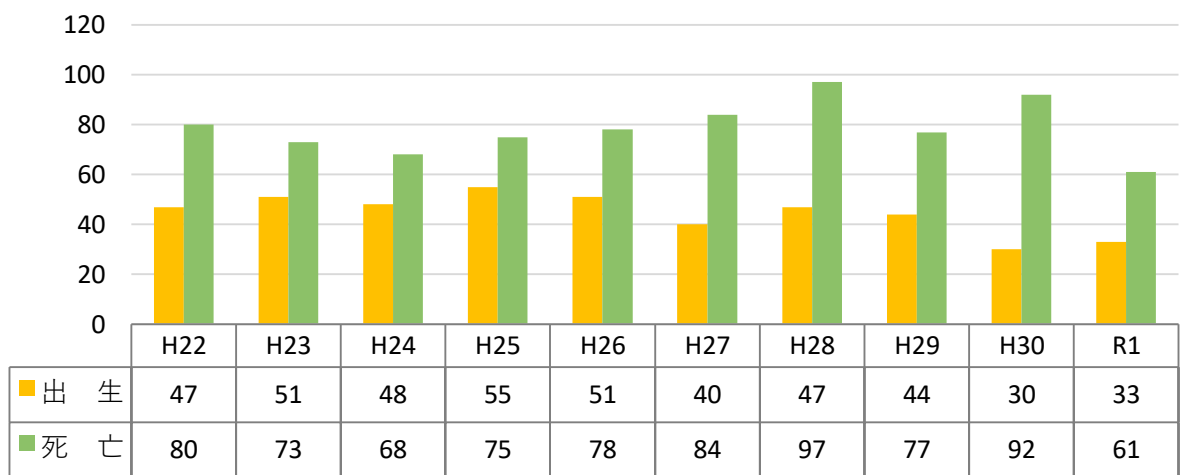
社会増減においては、転出者数と転入者数の差は少なく、高校卒業後に転出する人数が一定数あることを考えると、転入者が一定数あると考えられます。今後の対策として、一度転出した町民を確実に呼び戻す事に加え、大都市からの移住を受け入れるため、定住促進施策や雇用施策等が引き続き必要になると考えられます。

（資料：鹿児島県の推計人口）

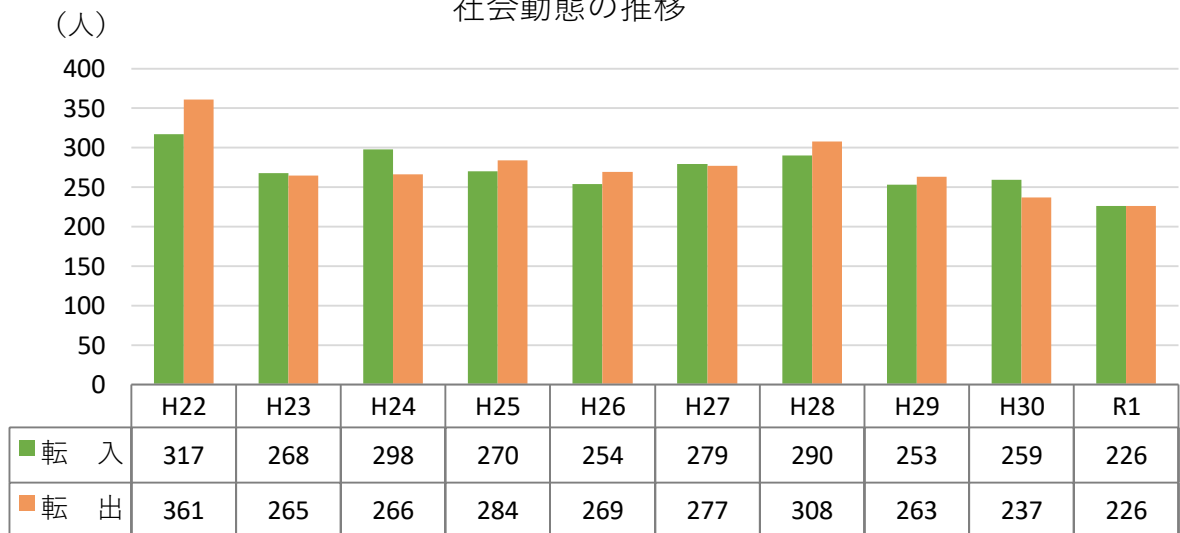


(資料：町勢要覧)

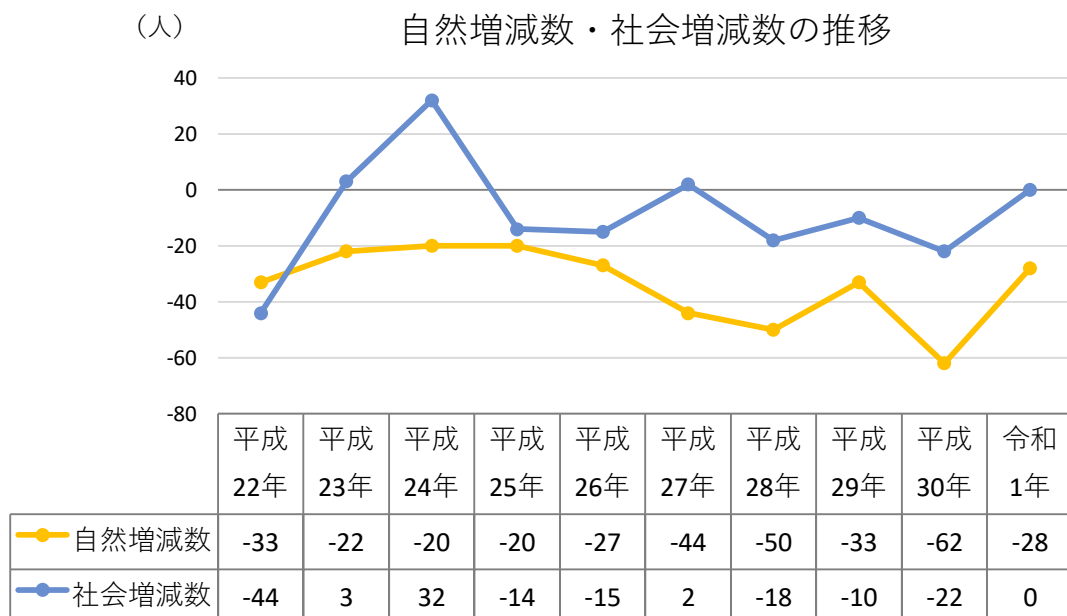
自然動態の推移



社会動態の推移



自然増減数・社会増減数の推移



第2章 評価の総括

1. 評価の総括

第5次与論町総合振興計画期間中（平成23年度から令和2年度）の本町を取り巻く社会経済情勢は、人口減少や少子高齢化の進展、長引く景気の低迷による雇用情勢の悪化、地球規模での環境問題の深刻化、情報通信技術の発展、地方分権の推進など、政治・経済・社会・教育・文化・環境など、あらゆる分野で大きな変革期でした。また、令和元年12月から今もなお猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症など、日本経済に大きな影響を与えた出来事があり、与論町も少なからず影響を受けました。

また、平成23年3月に発生した東日本大震災や、平成28年4月に発生した熊本地震により、地域防災体制の一層の強化の必要性和重要性を再認識し、災害時に中枢を担い、真に機能する防災拠点としての新庁舎整備など、町民の安全・安心な暮らしの確保に取り組んできました。

こうした中、本町の人口は減少傾向にあるものの、基本構想で掲げた将来の人口（目標）についても、全国的な人口減少の流れの中において、目標値の5,000人を119人上回り、一定の成果を示すことが出来たと考えられます。

また、重点プロジェクト及び基本計画においても、275の分野別事業の評価を踏まえると、重点プロジェクトの全体の達成率が68%、進捗率が84%、基本計画の全体の達成率が62%、進捗率が79%であることから、概ね計画どおりの施策展開が行われたものと考えられます。

一方で、進捗の遅れによりあまり効果が得られていない施策や、施策を展開する中で対応すべき課題が生じている施策があり、今後課題解決を図っていく必要があります。

そして、この10年間の第5次与論町総合振興計画の評価を、次期計画である第6次与論町総合振興計画を推進するための基礎資料として活用を図り、更なる与論町の発展へと繋げていきます。

2. 評価指標による評価集計

◆重点プロジェクト

○達成率及び進捗度

節別の名称 (大綱名称)	評価結果				評価項目数 (合計)	達成率	進捗度
	A A	A	B	C			
第1節 健康増進プロジェクト	0	2	1	0	3	73%	100%
第2節 子宝プロジェクト	4	1	0	1	6	85%	83%
第3節 人づくりプロジェクト	0	2	3	1	6	62%	83%
第4節 農水産業プロジェクト	0	3	3	2	8	60%	75%
第5節 環境プロジェクト	3	2	1	2	8	73%	75%
第6節 観光プロジェクト	0	1	6	0	7	63%	100%
計	7	11	14	6	38	68%	84%

◆基本計画

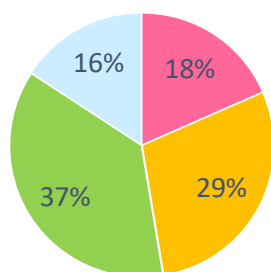
○達成度及び進捗度

章別の名称 (大綱名称)	評価結果				評価項目数 (合計)	達成率	進捗度
	A A	A	B	C			
第1章 健康・福祉・医療	3	19	15	7	44	67%	84%
第2章 教育・文化	0	16	13	10	39	61%	74%
第3章 産業	0	21	28	21	70	57%	70%
第4章 生活基盤	4	15	17	7	43	66%	84%
第5章 共生・協働	0	1	10	1	12	59%	92%
第6章 行財政	0	11	13	4	28	64%	86%
計	7	83	96	50	236	62%	79%

※上記のほか、判定不能が1件(第4章)。

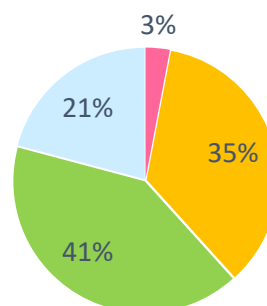
◆評価内訳

重点プロジェクト



- AA (100%)
- A (100%未満80%以上)
- B (80%未満60%以上)
- C (60%未満)

基本計画



- AA (100%)
- A (100%未満80%以上)
- B (80%未満60%以上)
- C (60%未満)

■ 重点プロジェクトにおいて、特に評価が高かった事業及び低かった事業

◇評価が高かった（AA）の事業

第2節 子宝プロジェクト

- 3-2-1-(2) 地域ぐるみの子育て支援体制の充実 (P11)
- 3-2-1-(3) 子どもが安心・安全・健やかに育つ環境づくり (P11)
- 3-2-1-(4) 未来の親となる子どもたちの育成支援 (P11)
- 3-2-2-(1) 子育て支援金給付事業 (P11)

第5節 環境プロジェクト

- 3-4-2-(1) 基礎調査の実態と全体構想の策定 (P19)
- 3-4-4-(1) 学校における環境学習の推進 (P20)
- 3-4-4-(2) 環境セミナー等の開催 (P20)

◇評価が低かった（C）の事業

第2節 子宝プロジェクト

- 3-2-3-(1) 縁結び事業等の支援 (P12)

第3節 人づくりプロジェクト

- 3-3-3-(1) シルバー人材センターの設立 (P15)

第4節 農水産業プロジェクト

- 3-4-2-(1) イノアの再生 (P17)
- 3-4-2-(2) サトイモの活用 (P17)

第5節 環境プロジェクト

- 3-5-3-(1) 環境保全型農業展開のためのシステムづくり (P19)
- 3-5-3-(2) 販売体制の整備 (P20)

■ 第5次与論町総合振興計画期間中に完成した主な事業

年度	事業名
23	宇和寺団地（4号棟）完成 ゆんぬ体験館完成 ゆんぬ飼料化ラブセンター完成
24	宇和寺団地（5号棟）完成 県営宇和寺団地（1号棟）完成 防災センター完成
25	県営住宅（2号棟）完成 応急仮設住宅茶花団地完成
26	最終処分場完成 町営城団地完成 県営宇和寺団地（3号棟）完成 と畜場完成
27	町営矢口団地完成
29	クリーンセンター美ら島完成 焼却施設完成
30	与論町多目的運動広場完成
1	与論町役場庁舎完成